

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）

分担研究報告書

標準的な健診・保健指導プログラム（改訂版）及び健康づくりのための身体活動基準2013に
基づく保健事業の研修手法と評価に関する研究

日本人間ドック学会研修会参加者の課題分析

研究分担者 和田 高士（東京慈恵会医科大学総合健診・予防医学センター 教授）

研究要旨 日本人間ドック学会研修会参加者の課題分析とくに、職種別の課題の分析、教育・教育訓練手法のありかたについて検証した。

これまでの日本人間ドック学会の特定保健指導の指導者育成事業はおおむね高い評価を得ていることがわかった。ただし医師は多忙のためか、研修会への参加時間をこれ以上費やすのは難しい結果が得られた。

A. 研究目的

日本人間ドック学会 研修会参加者に対するアンケート調査を実施、アンケート結果を分析することで、以下の検討を行う。人間ドック健診機関での特定保健指導の現状、その分析から、とくに指導者職種別での保健指導教育・教育訓練手法のありかた、問題点を抽出する。

B. 研究方法

アンケートは、本研究班のものと、日本人間ドック学会に与えられた命題を達成するために、日本人間ドック学会独自のものを設定することとした。

まず、協力委員により独自アンケート骨子を作成し、平成25年11月13日に公募により参集した15名の日本人間ドック学会関係者による委員会を開催し、アンケート内容について審議した。独自アンケート内容は25設問（表1）とした。

平成25年12月、会員4,678名に郵送によりアンケート実施開催の知らせを行った。

平成25年12月26日から平成26年1月21日まで、インターネット上でアンケート調査（表1）を行い、640名の参加者があった。職種の内訳は、表2の4)のごとく、看護師、栄養士、その他がいずれも3名以下と、統計解析に不十分なサンプル数であるため除外した。回答枝をスコア化し（表2）設問別に、Bonferroni/Dunn検定の平均値の多重比較による分散分析を行った。医師を基準として $p < 0.05$ は*、 $p < 0.01$ は**を付記した。保健師を基準として管理栄養士間はそれぞれ⁺、⁺で示した。

（倫理面への配慮）

アンケートへの返信をもって調査協力への同意とし、無記名回答を解析・公表することを実施の際に了承を得た。解析は、日本人間ドック学会内で行われ、日本情報システム・ユーザー協会からのプライバシーマークの付与機関である。

表1 日本人間ドック学会関係者へのアンケート

1. 特定保健指導を自信をもって行なっていますか
(1 . 自信がない , 2 . あまり自信がない , 3 . やや自信がある , 4 . 自信がある)
2. 施設内で知識収録型の勉強会はしていますか?
(1 . していない , 2 . 散発的に実施 , 3 . 定期的に実施)
3. 施設内でケースカンファレンス型の勉強会はしていますか? (1 . していない , 2 . 散発的に実施 , 3 . 定期的に実施)
4. 問題解決型の相談しあう機会がありますか
(1 . ない , 2 . 困った事例があるときに相談できる環境がある , 3 . 定期的にある)
5. 話し合った内容を実践に活かす仕組みはありますか (1 . ない , 2 . 個人的に工夫している , 3 . 組織で情報共有し解決している , 4 . マニュアル化している)
6. 自施設での特定保健指導マニュアルについて
(1 . ない , 2 . ないが相応の仕組みがある , 3 . あるが改訂されていない , 4 . ありそしてバージョンアップしている)
7. 過去1年間に外部の特定保健指導の研修会に参加しましたか (1 . なし , 2 . 1回 , 3 . 2 -3回 , 4 . 4回以上)
8. あなた自身がこれまでに特定保健指導に関して外部の研修会・学会で発表したことがありますか
(1 . なし , 2 . 1回 , 3 . 2 -3回 , 4 . 4回以上)
9. 人間ドック学会発行の特定健診・特定保健指導パンフレット15点について (1 . まったく知らない , 2 . 知っているが活用していない , 3 . 一部活用している , 4 多く活用している)
10. 上記のパンフレットを平成25年全面改訂しましたことについてお伺いします (1 . 知らない , 2 . 悪くなった , 3 . 良くも悪くもなっていない , 4 . 良くなった)
11. 今後のパンフレット使用について (1 . まったく活用しない , 2 . あまり活用しない , 3 . できれば活用したい 4 . 積極的に活用したい)
12. 人間ドック学会発行のグループ支援のためのDVD「メタボリックシンドロームと言われたら」 (1 . まったく知らない , 2 . 知っているが活用していない , 3 . 時々活用している , 4 多く活用している)
13. 今後、このDVD使用について (1 . まったく活用しない , 2 . あまり活用しない , 3 . できれば活用したい 4 . 積極的に活用したい)
14. 現在に活用しているツールで役立っているもの・効果的と思われるツールはありますか (複数回答可能) (1 . 歩数計・活動量計 , 2 . 体脂肪測定器 3 . 体脂肪モデル 4 . 動脈硬化についてわかるような模型や映像など 5 . 5 . 食品、料理サンプル 6 . 特定保健指導IT支援システム 7 . 禁煙支援ITシステム)
15. 研修会の内容はいかがでしたか (1 . 全く良くなかった 2 . あまり良くなかった 3 . 概ね良かった , 4 とても良かった)
16. 時間数は適切ですか? (1 . 不足している・2 . 適切・3 . 多すぎる)
17. 難易度はいかがですか? (1 . 難しい , 2 . やや難しい , 3 . やや易しい , 4 易しい)
18. e-learningを用いた事前学習について (1 . 授業に戻したほうがよい 2 , どちらでもよい・3 , 続けてほしい)
19. e-learningによる事前学習はいかがでしたか。
(学習のしやすさ、理解のしやすさ等)
(1 . 全く良くなかった 2 . あまり良くなかった 3 . 概ね良かった 4 . とても良かった)
20. 実践 (演習) は、あなたの業務に役立っていますか? (1 . 役に立っていない 2 . あまり役に立っていない 3 , 概ね役に立っている 4 . 役に立っている)

21. 5年間で最低2回の研修受講について
(1. 1回にしてほしい, 2. 2回でよい, 3. 機会があれば3回以上受けたい)
22. 1回の研修会の時間(3時間半)について
(1. さらに短く 2. 現状のまま・3. もう少し長く)
23. 演習についてはどのような内容をご希望でしょうか(複数回答可能)
模範ロールプレイと研修生による実践
保健指導実践者としての演習(初回面接・継続支援を中心に)
保健事業統括者としての演習(報告書作成、保健指導の評価を中心に)
24. 研修会はその後の業務に役立っていますか?
(1. 役立っていない 2. あまり役立っていない, 3. まあ役立っている, 4. 役立っている)
25. 今後の研修会の内容についてお伺いします(複数回答可能)
保健指導をするスタッフ養成研修
実践のためのスキルアップ
看護師等初回面接のみの可能な職種のブラッシュアップ
情報交換の場

表2 回答枝のスコア化

- A. 勤務形態(常勤1, 非常勤2),
B. 保健指導年数(1年未満, 1~3年2, 4~9年3, 10年以上4)
C. 指導従事日数: 週1日未満1, 週1日以上2)
D. 年間指導担当人数(0人1, 10人未満2, 10~49人3, 50~99人4, 100人以上5)
E. 保健指導の形態(個別1, 集団2, 個別と集団3)
F. 指導・教育的立場(一人で全部できない1, 一人でできる2, 他スタッフの指導もできる3)

- G. 施設での年間で指導を受ける人数(9名以下1, 10~49名2, 50~99名3, 100名以上4)
H. 施設での指導をするスタッフ人数(2名以下1, 3~5名2, 6~9名3, 10~19名4, 20名以上5)
I. 機能評価施設(該当1, 非該当2)。

C. 研究結果

集計された人数は640名であった。そのプロフィールを表3に示す。

表3 対象者の内訳

- 1) 性別: 男性131名 女性509名
2) 年齢: 20歳代57名, 30歳代219名, 40歳代156名, 50歳代148名, 60歳以上60名
3) 所属: 市区町村4名, 健診機関254名, 医療機関347名, 保健所5名, 企業17名, その他13名
4) 職種: 医師174名, 保健師298名, 看護師3名, 管理栄養士162名, 栄養士2名, その他1名
5) 勤務形態: 常勤591名, 非常勤49名
6) 保健指導年数: 1年未満52名, 1~3年136名, 4~9年287名, 10年以上165名
7) 指導従事頻度: 週1日未満265名, 週1日以上375名
8) 年間指導担当人数: 0人94名, 10人未満186名, 10~49人215名, 50~99人70名, 100人以上65名 (欠損値10名)
9) 保健指導の形態: 個別517名, 集団10名, 個別と集団81名 (欠損値32名)
10) 指導・教育的立場 一人で全部できない149名, 一人でできる304名, 他スタッフの指導もできる163名 (欠損値24名)
11) 年間で指導を受ける人数: 9名以下103名, 10~49名199名, 50~99名120名, 100名以上196名 (欠損値22名)
12) 指導をするスタッフ人数: 2名以下228名,

3～5名282名，6～9名66名，10～19名41名，
20名以上5名（欠損値18名）

13）機能評価施設：はい334名，いいえ290名
（欠損値16名）

表1の各質問項目についての有意差のあった結果で職種間に有意差のあったものを表4に示す。設問15から25はブラッシュアップ研修会に参加した者が回答するため，例数は少なくなっている。設問14，23は優劣がないため解析から除外した。

表4 各設問の職種別平均スコアと（例数）

	医師	保健師	管理栄養士
設問1	2.46(156)	2.52(290)	2.82(157)**‡
設問2	1.45(156)	1.38(290)	1.29(157)**
設問3	1.43(156)	1.47(290)	1.30(157)‡
設問5	2.04(156)	2.23(290)**	2.14(157)
設問6	2.16(156)	2.68(282)**	1.08(153)
設問7	1.97(156)	2.20(282)**	2.11(153)
設問12	1.68(127)	1.37(177)**	1.51(106)**
設問13	2.43(127)	2.10(177)**	2.06(106)**
設問20	2.70(152)	2.86(219)*	2.89(128)*
設問21	1.77(155)	2.00(223)**	1.94(130)
設問22	1.85(154)	2.01(222)**	2.02(129)**
設問24	2.82(152)	3.04(221)**	3.06(129)**

D. 考察

有意差のあったものについて考察する。

「設問1 特定保健指導を自信をもって行なっていますか」については，管理栄養士は医師（ $p < 0.001$ ），保健師（ $p=0.005$ ）に比べて有意に自信をもって行っていた。経験年数などの背景を検討したがその理由を解明できないことは，アンケート調査の限界と考えられた。「設問2 施設内で知識収録型の勉強会はしていますか」については医師が管理栄養士に比べ有意に実施していた。

「設問3 施設内でケースカンファレンス型の勉強会はしていますか」は，保健師は管理栄養士に比べ有意に行っていた。これらから医師の知識学習型，保健師の実践的学習型が特徴づけられると考えられた。それは「設問5 話し合った内容を実践に活かす仕組みはありますか」で，保健師は医師に比べ有意に高スコアという解析結果からも伺えられた。

体制については，「設問6 自施設での特定保健指導マニュアル」の完備状況の設問，の設問で医師より保健師で有意に高スコアを示した。

研修会の参加に関しては「設問7 過去1年間に外部の特定保健指導の研修会に参加しましたか」では保健師は医師に比べ有意に研修会に参加していると回答している。また，日本人間ドック学会主催のブラッシュアップ研修会についての設問で「設問16 時間数は適切ですか」では医師は保健師に比べ有意に時間数が多すぎると感じており，「設問21 5年間で最低2回の研修受講について」は有意に1回にしてほしいと医師が回答しており，「設問22 1回の研修会の時間（3時間半）について」も医師は他職種に比べ有意に短くしてほしいと回答していることから，医師の外部研修会参加への時間的余裕がないことがうかがえた。

「設問20 実践（演習）は、あなたの業務に役立っていますか」，「設問24 研修会はその後の業務に役立っていますか」では医師は保健師，管理栄養士に比べ業務に役立つ率が低いとしているものの，総じて役に立っていると結果であった。

設問12 人間ドック学会発行のグループ支援のためのDVD「メタボリックシンドロームと言われたら」の活用度は，どの職種も活用度は低く，とくに保健師の活用度が有意に低かった。このDVDは特定保健指導の集団型で主に使用するものである。個別85%，集団2%，個別と集団13%と集

団の比率が極めて低いことも起因していると考えられた。なお医師は設問13で今後DVD活用したいという回答が高かったのは、上記の研修会参加に関する回答結果と併せると、時間利用を考えての回答と伺えられた。

E. 結論

これまでの日本人間ドック学会の特定保健指導の指導者育成事業はおおむね高い評価を得ていることがわかった。ただし医師は多忙のためか、研修会への参加時間をこれ以上費やすのは難しい結果が得られた。

F. 健康危険情報

なし

H. 知的財産権利の出願・登録状況

なし

協力委員

山門 實 三井記念病院総合健診センター
秋元順子 医療法人社団こころとからだの
元氣プラザ

奥田友子 一般財団法人京都工場保健会
佐藤さとみ 東京慈恵会医科大学附属病院
新橋健診センター

石本裕美 日本赤十字社熊本健康管理センター
山下真理子 医療法人社団 同友会
産業保健本部

